

国立大学図書館機能の強化と革新 に向けて

～国立大学図書館協会ビジョン2020～

2017年10月18日（水）

国立大学図書館協会

国立大学図書館協会とは

国立大学（大学共同利用機関を含む）及び放送大学の附属図書館（大学共同利用機関は図書館施設）＝国立大学図書館 を会員とした組織

（目的）

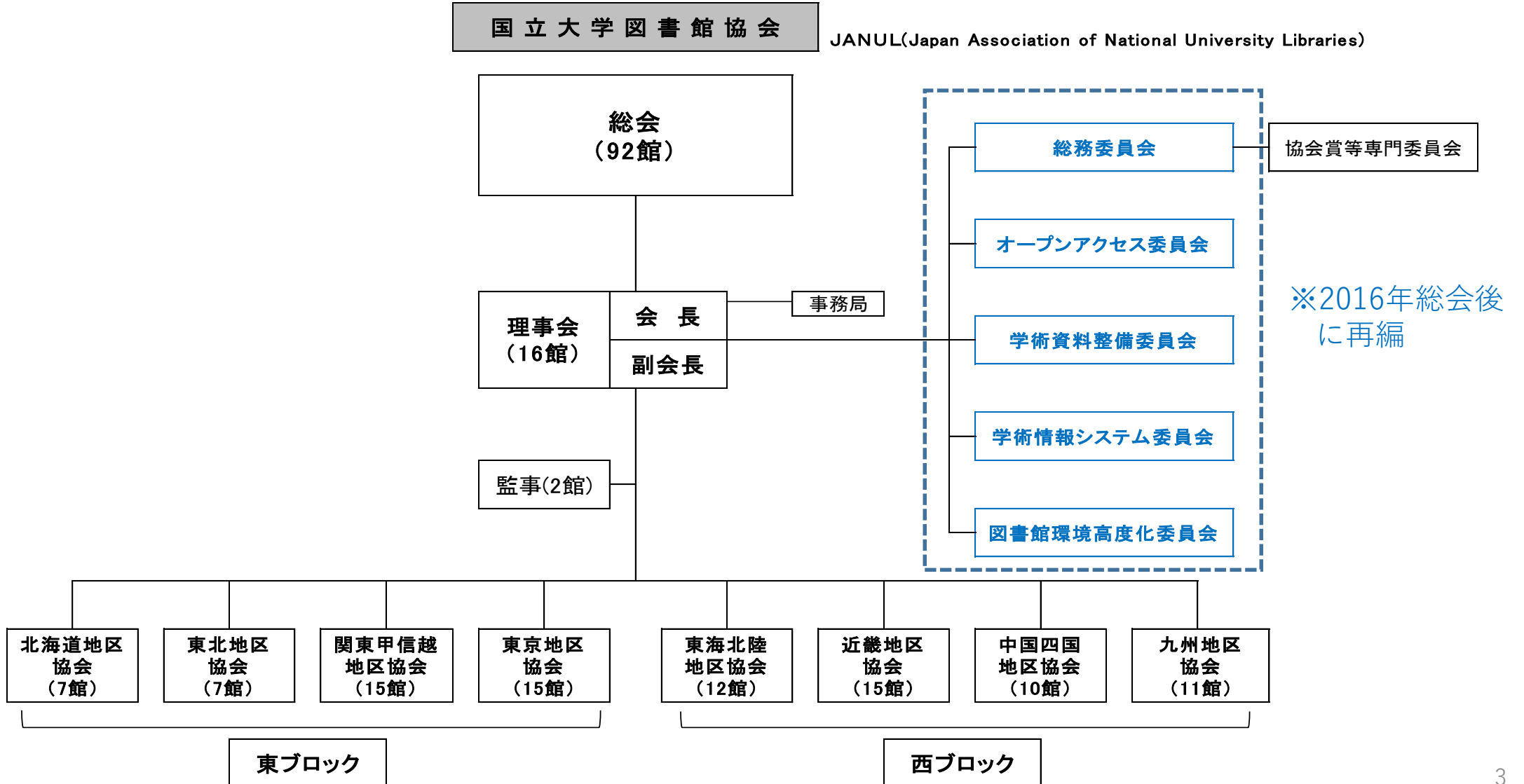
国立大学図書館の緊密な連携と協力により、図書館機能の向上を支援するとともに、広く学術情報資源の相互利用を推進し、学術情報流通基盤の発展に貢献し、もって大学の使命達成に寄与することを目的とする。

（事業）

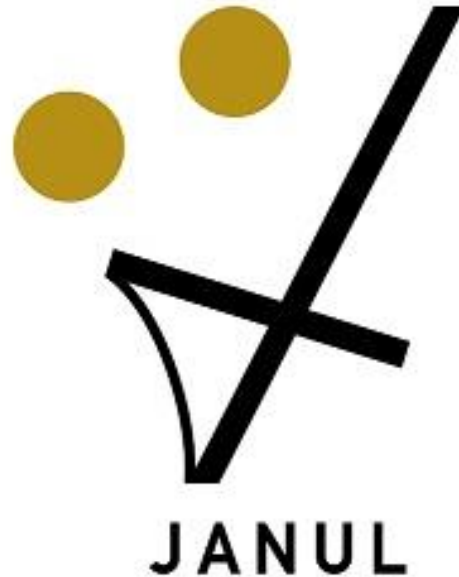
- （1）国立大学図書館の機能向上に関し必要な調査研究
- （2）学術情報資源の共同整備と相互利用の促進
- （3）国立大学図書館職員の資質向上のための事業
- （4）学術情報流通に関する国内外の団体との連携・協力
- （5）前各号に掲げるもののほか協会の目的を達成するために必要な事業

国立大学図書館協会の組織

平成29年4月現在



国立大学図書館協会のロゴマーク



- 東京芸術大学の松下計教授（附属図書館長），同大美術研究科の藤谷さや氏，同大視覚・伝達研究室によって制作
- 2017年6月22日・23日に開催した第64回総会で披露
- 図書館の「囧」の文字から口（くにがまえ）の部分を取り払った形状から着想を得たデザイン
- 大学図書館と協会が社会に対してひらかれていることを表すと同時に、人と人、人と情報、そして図書館と図書館が交差し、相互につながる様子を表現

国立大学図書館協会ビジョン策定の背景

▶ 従来の指針

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」（1980年1月）

▶ 法人化後の国立大学図書館の変化

法人化前から：大学を超えた集団としての国立大学図書館

法人化の後に：個々の国立大学においてその一部として位置づけられ個別化が進行


▶ 図書館を取り巻く技術・制度等の変化への対応



● 学術コミュニケーションが変容するなかで大学図書館が果たすべき役割も変化

● 基本理念とその実現方法を言語化し共有することで、大学図書館の本質的役割の再確認

ビジョン策定までの経緯

- 2015年11月
ビジョン策定への着手
(国立大学図書館協会総務委員会の下に「ビジョン策定小委員会」を設置)

小委員会において原案作成
各地区協会・理事会での協議
- 2016年6月
第63回国立大学図書館協会総会において採択

大学図書館の基本理念

大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。

基本理念実現のために

- 3つの重点領域と、それぞれにおける戦略的な目標を設定
- 国立大学図書館協会及び各会員館は、自らの役割と活動のあり方をつねに見直しながら、各重点領域における目標の達成に向けた取り組みを進める
- 2020年を一つの節目としてそれまでの達成度を確認し、必要に応じてビジョンに対する検討を加える

3つの重点領域

① 知の共有

＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有

② 知の創出

新たな知を紡ぐ＜場＞の提供

③ 新しい人材

知の共有・創出のための＜人材＞の構築

戦略的目標：重点領域① 知の共有

<蔵書> を超えた知識や情報の共有

- 大学における教育・研究に必要な知識，情報，データを網羅的に提供
- 紙の図書や雑誌等により構築された従来の蔵書に加え，電子ジャーナルや電子ブック等の電子的リソース，機関リポジトリに収載される研究論文，学習教材やデータといった教育研究成果，インターネット上で誰もが自由にアクセスできる有用なコンテンツをも含む全体を対象



知の共有のための方策を検討し実現

戦略的目標：重点領域① 知の共有

<蔵書> を超えた知識や情報の共有

目標1) 教育研究成果の発信，オープン化と保存

- ✓ 大学で生み出される教育研究成果の電子的流通とオープン化の推進
- ✓ それらの長期的な保存

戦略的目標：重点領域① 知の共有

<蔵書> を超えた知識や情報の共有

目標2) 出版された資料の整備と利用

- ✓ 紙の図書や雑誌等の蔵書，契約によってアクセス可能となる電子ジャーナルや電子ブック等の電子的リソース等を適切に整備
- ✓ 利用環境の整備に加え，長期的な利用を可能に

戦略的目標：重点領域① 知の共有

<蔵書> を超えた知識や情報の共有

目標3) 知識や情報の発見可能性の向上

- ✓ 総合目録データベースをはじめとする学術情報システム
基盤を高度化
 - 知の総体を対象として，必要な情報がより効率的・網羅的に発見できる環境を実現

戦略的目標：重点領域① 知の共有

[京都大学の事例 1]

(1) オープンアクセス推進事業

①オープンアクセス方針説明会の開催

②学術情報リポジトリ「KURENAI」による研究成果の公開促進

③人社系研究支援のための資料電子化と国際規格IIIFによる発信

－富士川文庫（医学史関係資料）、朝鮮古文献資料など

(2) 基盤的電子ジャーナルの選定活動

(3) 研究データの保存・発信機能をもつ新図書館の設計

戦略的目標：重点領域② 知の創出

新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

【これまで】 知識や情報，あるいは人同士の相互作用を生み出すコミュニケーションの場
知を創出する空間

【これから】 旧来の「館」の壁を超えてその場を拡張
物理的な場だけでなく，知のネットワーク上に存在する仮想空間を新たな知を創出するための場として活用



**教育・学習の質を向上させ，研究活動を支援するとともに，
大学と社会との連携を促す**

戦略的目標：重点領域② 知の創出

新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

目標1) 知を創出する場の拡大・整備・提供

- ✓ 人と知識や情報，あるいは人同士の相互作用を生み出す
コミュニケーションの場を提供
- ✓ そうした場の拡張により，教育・学習や研究を通じた知
の創出を促す

戦略的目標：重点領域② 知の創出

新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

目標2) 社会に開かれた知の創出・共有空間の提供

- ✓ 学術コミュニティに限らない様々な人々が知を媒介として集い、さらに新たな知の創出と共有を実現するための場を提供

戦略的目標：重点領域② 知の創出

[京都大学の事例 2]

- (1) 研究活動と研究交流を促進する研究支援型図書館の新設
ー場としてのリサーチ commons とオープンラボ
- (2) 全学共通科目での情報リテラシー教育の継続
- (3) 京都府立図書館との相互協力事業の実施
- (4) 貴重資料の電子化と展示会の開催
ージョサイア・コンドル建築図面、二条城関係資料（中井家文書）など

戦略的目標：重点領域③ 新しい人材

知の共有・創出のための〈人材〉の構築

- さまざまな能力やスキルを有する人材が混在するハイブリッド（複合的）な人材の集合体を形成



- 大学図書館に期待される新たな役割を果たすとともに、多様な知の共有と創出を促す
- 新たな人材の構築が実現できるような制度を整備

戦略的目標：重点領域③ 新しい人材

知の共有・創出のための〈人材〉の構築

目標1) 新たな人材の参画

- ✓ 教員，職員，研究者，学生等を含むさまざまな能力やスキルを有する人びとと図書館職員とが一体となり，蔵書の評価や選別にかかる「キュレーション」や人と知識や情報，あるいは人同士の相互作用を促す「ファシリテーション」等の機能を提供



多様な知の共有と創出を実現

戦略的目標：重点領域③ 新しい人材

知の共有・創出のための〈人材〉の構築

目標2) 国立大学図書館職員の資質向上

- ✓ これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識やメタデータ運用スキルに加え、新たな知識やスキルを習得



学術情報流通環境の変化の中で国立大学図書館に期待される新たな機能を実現

戦略的目標：重点領域③ 新しい人材

[京都大学の事例3]

- (1) オープンアクセスに関する専任研究者の雇用
- (2) URAとの共同企画によるサービス・研修会
 - ①学内研究者の新著案内サービス
 - ②デジタルアーカイブに関する研修会
- (3) 学内プログラム等による図書系職員の海外派遣研修
 - －CERN、英国大学図書館など

実現に向けて ー 国立大学図書館協会 ー

- 国公立大学図書館協力委員会，大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）等，設置母体の違いを超えた大学図書館間の連携の枠組みを活用
- 国立大学協会と協力し，国の支援等も得ながら，海外との連携も含め具体的な活動を立案し実行するための実施体制を整備

実現に向けて — 国立大学図書館協会 —

委員会組織

総務委員会

オープンアクセス委員会

学術資料整備委員会

学術情報システム委員会

図書館環境高度化委員会

- 協会の組織・運営，人材についての制度の設計・整備および広報に関する企画・立案
- 協会賞および海外派遣事業の企画・審議



- ✓ 外部への情報発信強化および協会内の情報共有促進を行うためウェブサイトのリニューアル等協会の広報改善を実施
- ✓ 様々な能力やスキルを持つ人・組織と図書館との協働及び人的交流のあり方を検討
- ✓ 海外派遣事業のあり方および協会賞を含む会員館の優れた取り組みの発信のあり方を検討
- ✓ 協会ビジョンに掲げた目標について、2016年から節目の2020年までの活動期間における中間および終了時の達成度を確認する指標や方法を検討

実現に向けて — 国立大学図書館協会 —

委員会組織

総務委員会

オープンアクセス委員会

学術資料整備委員会

学術情報システム委員会

図書館環境高度化委員会

- 多様化する学術情報のうち主として大学が生産する教育研究成果の発信およびオープン化と保存に取り組み，大学における教育研究の進展および社会における知の共有や創出を実現



- ✓ オープンアクセスへの取り組み状況に関する実態調査（2016年度）
http://www.janul.jp/j/projects/oa/OA_report_201703.pdf
 - 結果を受けた具体的な事業の開始
 - 大学が生産する教育研究成果の発信やオープン化と保存に取り組み，大学における教育研究の進展及び社会における知の共有や創出を実現するための調査や企画を実施
- ✓ 学位論文（博士），紀要論文の機関リポジトリへの登録促進とDOI付与，研究者への広報に関する優良事例の調査及び共有
- ✓ 学術論文の機関リポジトリへの登録，効率的な業務フロー，オープンアクセス方針の策定機関拡大等に関する事例の調査及び共有
- ✓ オープンアクセスの次の段階への展開にむけて，人材育成・マネジメントに関する海外先行事例の調査及び共有

実現に向けて — 国立大学図書館協会 —

委員会組織

総務委員会

オープンアクセス委員会

学術資料整備委員会

学術情報システム委員会

図書館環境高度化委員会

- 大学図書館が蔵書や電子リソース等を適切に整備し，利用環境を整え，長期的な利用を保証する体制を構築するための調査・企画・立案



- ✓ 国立大学図書館として利用者に提供すべき学術情報資源を適切に整備し，利用環境を構築するために，調査・企画などを実施
 - 電子ジャーナルに関する検討
2017年12月にシンポジウム「電子ジャーナル購読をめぐる課題 — サステイナブルな学術情報流通のために —」を開催予定
 - デジタルアーカイブに関する検討
 - シェアード・プリントに関する検討
- ✓ 上記のほか取り組むべき課題の再確認，各課題の優先度・委員会としての取り組み方に係る検討

実現に向けて — 国立大学図書館協会 —

委員会組織

総務委員会

オープンアクセス委員会

学術資料整備委員会

学術情報システム委員会

図書館環境高度化委員会

- 総合目録データベースをはじめとする学術情報システム基盤を高度化することにより，知の総体を対象として，必要な情報が効率的・網羅的に発見できる環境を実現



- ✓ 総合目録DBをはじめとする学術情報システム基盤の高度化により，知の総体を対象として，必要な情報が効率的・網羅的に発見できる環境を実現
- ✓ NIIが各地区で行う「これから委員会」による意見交換会の開催を積極的に支援
- ✓ ERDB-JPのパートナーを拡大する活動を支援
- ✓ 学術情報システム関連諸委員会等の検討状況や国内外の事例を調査し，学術情報システム全体を俯瞰するレポートを作成・公開
- ✓ 今後の方向性を総合的に検討するため、本委員会での議論を情報共有しつつオープンな場で進めることができるコミュニティ構築や、人材育成のあり方について検討
- ✓ 日米ILL/DD および日韓ILL/DD プロジェクトの進捗管理

実現に向けて — 国立大学図書館協会 —

委員会組織

総務委員会

オープンアクセス委員会

学術資料整備委員会

学術情報システム委員会

図書館環境高度化委員会

- 知を創出する場としての大学図書館のサービスの高度化および地域・社会との協働に関する企画・立案



- ✓ 大学図書館における教育・学習支援、及び研究支援高度化のための諸方策に係る調査研究、企画立案等
- ✓ 知を創出する場としての大学図書館のサービス高度化および地域社会との協働をテーマとしたワークショップを開催（2016年度および2017年度）し、参加館自ら、それらの支援サービスのデザインを考え、それに沿うアクションプラン策定の機会提供の場とする
- ✓ ワークショップの成果を踏まえ、大学図書館における教育・学習支援、及び研究支援高度化のための諸方策に係る調査研究を実施

実現に向けて ー 国立大学図書館協会 ー

各委員会に対して

- 各委員会においてビジョン実現に向けた具体的事業計画の策定（→財源措置）

各地区協会に対して

- ビジョンを踏まえた事業計画の策定（→財源措置）

実現に向けて ー各会員館ー

- 協会の活動と連動し，学内の関係部署や他の国立大学図書館をはじめとする国内外の図書館の協力を得ながら，それぞれの大学のミッションや中期目標等に沿うように戦略的目標を選択してその達成をはかり，大学図書館の基本理念の実現をめざす